

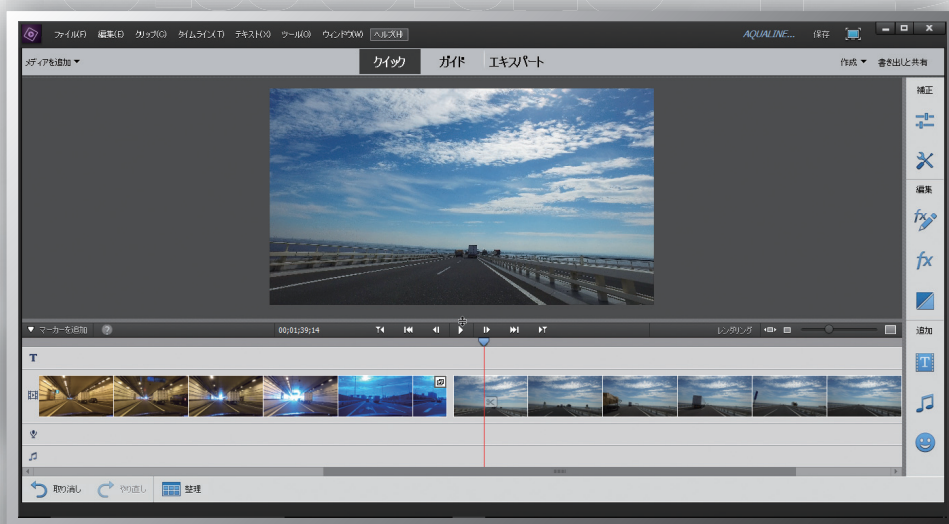


お気に入りVIDEOをプロデュース

プレミアエレメンツ  
**Premiere  
Elements**

**15**

Windows版



Adobe Premiere Elements 15 入門書の決定版!

魅せる映像をかんたん編集  
らくらく操作の定番ソフトで  
イメージ通りのVIDEOを作る

SCC



お気に入りVIDEOをプロデュース

プレミアエレメンツ

# Premiere Elements

# 15

Windows版



※ Adobe、Adobeロゴ、Adobe Premiere Elements、Premiere、Adobe Photoshop Elements、Photoshopは米国またはその他の国またはその両方においてAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標または商標です。

※ 本書はAdobe Premiere Elementsの開発元であるアドビシステムズ社がスポンサーしているものではありません。

※ SmartSound, Sonicfire are either registered trademarks or trademarks of SmartSound Software, Inc.

※ Apple, iPod, iTunes, QuickTimeは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の登録商標または商標です。

※ YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。

※ Microsoft、Windows、Windows 8.1、Windows 10、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ Facebook、Facebookロゴは Facebook, Inc.の商標または登録商標です。

※ その他、本書に記載されている会社名、製品名などは、各社の登録商標または商標です。

※ 本書では™および®の記載は省略しました。

※ お使いの環境・設定等によっては本書の操作例・表示色等と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※ 本書の使用(本書のとおりにより操作を行う場合を含む)により、万一、直接的・間接的に損害等が発生しても、出版社および編著者、著作権者は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

# はじめに

---

最近では、デジタルカメラやスマートフォンなど手軽にビデオを撮影できる機器が普及し、誰でもビデオ撮影を楽しむことができるようになってきました。本書は、撮影したビデオに編集や加工をして、ご家族やご友人たちとも楽しめるようにしたいと思っている方に向けた書籍です。

本書では、Adobe Premiere Elements 15（以下、Premiere Elements 15）を使ったビデオ編集の基礎から応用まで、ひとつおりの知識とテクニックを解説しています。

本書は4部構成になっています。

第1部の「ビデオ編集の全体像をつかむ」では、ビデオ編集の基礎知識から、パソコンでビデオ編集をするのに何が必要になるのか、実際にどのように編集作業を進めていくのかななどを解説します。

第2部の「Premiere Elements 15で簡単にビデオ編集」では、素材の準備→パソコンへの取り込み→編集作業→メディアへの書き出しといった、基本的なビデオ編集の進め方を中心に解説します。

第3部の「Premiere Elements 15で動画の高度な編集」では、ビデオ素材の整理や、第2部よりも一歩踏み込んだ編集作業を解説します。また、編集されたビデオでよく見られる特殊効果など、映像の加工方法にも触れていきます。

第4部の「魅力的なビデオを作るためのアイデア」では、さらに発展的な映像の加工方法から、テロップやオーディオの編集など、ビデオをさらに楽しく演出する手法を中心に、動画共有サイトへの書き出しについても解説します。

これからPremiere Elements 15を使ってビデオ編集を楽しもうという方に、本書が少しでもお役に立てれば幸いです。

2016年12月 編著者

## ■サポートページのご案内

本書の解説で使用している映像素材のサンプルファイルや、刊行後に発見された誤字および脱字に対する正誤表などの配布は、以下のサポートページで行います。

**本書専用サポートページ**

**<http://www.scc-kk.co.jp/scc-books/support/B-391/support.html>**

なお、サポートページの内容は必要に応じて随時更新されますので、ご注意下さい。

# Contents

はじめに  
サポートページのご案内

## 第 1 部 ビデオ編集の全体像をつかむ

<b>第 1 章 ビデオ編集とは</b> .....	1
1. ビデオ編集の基礎知識 .....	2
2. Premiere Elements 15 の特徴 .....	5
3. Premiere Elements 従来製品との比較 .....	10
<b>第 2 章 パソコンで編集するには</b> .....	13
1. ビデオを取り込むには .....	14
2. パソコンの要件 .....	17
<b>第 3 章 ビデオ編集の手順</b> .....	19
1. 素材の準備 .....	20
2. 基本的な編集 .....	22
3. 映像の加工 .....	26
4. タイトルやテロップの追加 .....	28
5. オーディオの編集 .....	29
6. 書き出し .....	31

## 第 2 部 Premiere Elements 15 で簡単にビデオ編集

<b>第 1 章 Premiere Elements 15 で編集作業を開始するには</b> .....	33
1. Premiere Elements 15 の起動とプロジェクトの作成 .....	34
2. Premiere Elements 15 の終了と編集作業の再開 .....	41

<b>第 2 章 素材の準備</b> .....	45
1. ビデオカメラや DVD、スマートフォンなどからの取り込み .....	46
2. パソコンに取り込み済みの素材の追加 .....	50
<b>第 3 章 編集</b> .....	53
1. クリップの配置 .....	54
2. 編集状態の確認 .....	57
3. 基本編集操作 .....	65
4. モーションタイトルによるムービータイトル画面の制作 .....	71
<b>第 4 章 ガイド付き編集</b> .....	75
1. ガイド付き編集を始める .....	76
<b>第 5 章 ビデオの書き出し</b> .....	89
1. メニューの作成 .....	90
2. ディスクへ書き出し .....	102

## 第 3 部 Premiere Elements 15 で動画の高度な編集

<b>第 1 章 エキスパートビュータイムラインで編集</b> .....	105
1. 編集状態の確認操作 .....	106
2. 基本的な編集操作 .....	115
3. マーカーの利用 .....	127

<b>第 2 章 映像の加工</b> .....	133
1. フェードイン、フェードアウト .....	134
2. レンダリング .....	138
3. トランジション .....	143
4. エフェクト .....	150
5. カラーポップの利用による白黒ビデオの作成 .....	157
6. パンとズームの利用によるエフェクトの作成 .....	161

## 第 4 部 魅力的なビデオを作るためのアイデア

<b>第 1 章 さまざまな素材の利用</b> .....	167
1. インスタントムービー機能で写真からムービーを作成 .....	168
2. クリップアートや写真などの画像の利用 .....	173

<b>第 2 章 映像加工のさまざまな手法</b> .....	185
1. 「お気に入りの場面」機能を使ってムービーを作成 .....	186
2. レトロ調に見せるには .....	191
3. 色や明るさを変更するには .....	193
4. かすみを除去するには .....	206
5. ビデオのスピードを変更するには .....	208
6. クリップ内の被写体に、グラフィックやテキストを追跡させる .....	216
7. ビデオストーリー機能によるムービー作成 .....	221
8. 写真やビデオからコラージュ作成 .....	229

<b>第 3 章 タイトルやテロップの利用</b> .....	239
1. タイトルの追加 .....	240
2. 見栄えのするタイトルを作成するには .....	245
3. エンディングロールを入れるには .....	247
4. テキストスタイルを変更するには .....	250
5. タイトルをフェードイン・フェードアウトするには .....	252
6. テキストに動きを付けるには .....	253



<b>第 4 章 オーディオの編集</b> .....	<b>255</b>
1. BGM の追加 .....	256
2. ナレーションの追加 .....	267
3. 音量の調整 .....	276
4. オーディオのフェードイン・フェードアウト .....	280
5. 音楽リミックス機能でオーディオの長さを調整する .....	286
6. オーディオエフェクトを使う .....	289
7. Premiere Elements 15 に用意されたサウンドエフェクトを使う .....	292
8. 雑音を軽減するには .....	294
<b>第 5 章 メニューの作成</b> .....	<b>297</b>
1. シーンメニューのシーンが始まる位置を変更するには .....	298
2. シーンメニューのサムネールを変更するには .....	303
3. メニューの背景をオリジナルの画像や映像に変更するには .....	304
4. メニューを削除するには .....	306
<b>第 6 章 ビデオの書き出しと共有</b> .....	<b>309</b>
1. ハイビジョン画質で DVD にビデオを書き出すには .....	310
2. 複数の機器やウェブで見るためにビデオを書き出すには .....	313
3. 再生する機器を指定してビデオを書き出すには .....	316
4. ビデオを DVD へ書き込む内容に変えてフォルダーに書き出すには .....	318
5. YouTube へビデオを書き出すには .....	322
6. Facebook にビデオを公開するには .....	326
<b>Index</b> .....	<b>329</b>

## 第1章

# ビデオ編集とは

通常のビデオカメラのほかに、デジタルカメラや携帯電話、スマートフォンなど動画を撮影できる機器が圧倒的に普及しています。また、動画共有サイトなどに投稿されたビデオを見かける機会も増えました。この章ではパソコンでビデオを編集する前に知っておきたい基礎的な知識や、Premiere Elements 15に新たに搭載された機能について紹介します。

# 1. ビデオ編集の基礎知識

## ■ビデオは身近なコミュニケーションツール

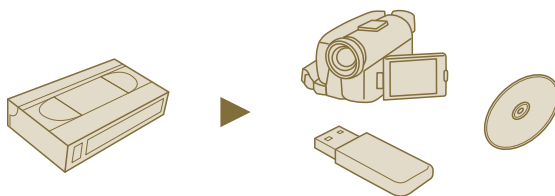
一昔前、ビデオといえばビデオテープに録画するのが当たり前でした。携帯して撮影に使うビデオカメラでも、記録メディアは大きさはコンパクトながら、やはりビデオテープでした。現在では、DVD やハードディスクといったビデオテープ以外のメディアを経て、ビデオカメラの内蔵メモリやメモ리카ードといった記録メディアが主流になってきています。

また、ビデオ撮影に使われる機器もビデオカメラだけでなくデジタルカメラやスマートフォンなど、入手しやすいものが普及しています。

それとともに、一般の人たちが撮影したビデオを見る機会もさらに増えてきました。友人などが撮影・編集したビデオから動画共有の Web サイトなど、情報を伝える手段として、ビデオは普通に使われるようになりました。

ある調査によれば、ビデオカメラの普及率は 39.7% (※)、デジタルカメラの普及率は 75.6% となっています。ビデオを撮影・閲覧できる機器として、スマートフォンも 67.4% と大きく普及が進んでいます。

※ 出典:内閣府経済社会総合研究所「消費動向調査」主要耐久消費財の普及率(二人以上の世帯)平成 28 年 3 月実施調査結果。

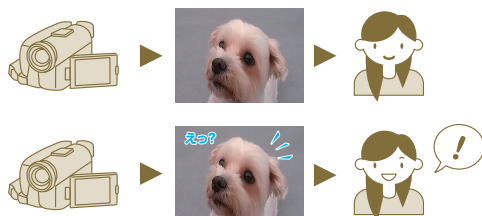


記録メディアの変化とともに、ビデオもどんどん身近になってきました。

## ■ビデオ編集

ビデオは撮影したそのままを見せるという場合もありますが、やはり見る人のことを考えて少しでも見やすく面白い内容にしたいものです。ビデオカメラなどを入手して撮影の機会が増えると、だれでもそう考えるようになります。

ビデオの内容を充実させるには、ビデオ編集という作業が欠かせません。撮影した映像に手を加えて、見せる順番を変えたり、タイトルやテロップ、BGM や効果音やナレーションを追加するというのは初歩的で、ビデオ編集の基礎と呼べるものです。こうした基礎的なものからビデオ編集を始めると、だんだんと自分なりに特徴を加えた内容にしていきたくくなります。



撮影したまま見せるのもいいですが、「編集」を加えたほうが興味を持ってもらいやすいです。

## ■ビデオ編集ソフト

ビデオテープに記録する時代から、動画をファイルとして記録するデジタルメディアの時代になったおかげで、誰もがより手軽にビデオ編集を行える時代になりました。パソコンとビデオ編集ソフトを使えば、誰でも手軽にビデオを作ることができます。

ビデオ編集ソフトは、シーンを並べ替えたり長さを調整するといった基本的な作業はもちろん、映像や音楽に特殊な効果を加えたり、複数の映像を合成したり、TV放送のように画面の中に小さな画面で別の映像を表示したりと、一歩進んだ編集作業が行えます。

本書で紹介している Premiere Elements 15 は、そんなビデオ編集ソフトのひとつです。一般的なビデオ編集作業はもちろん、ビデオをさらに楽しく見せるためのさまざまな機能を簡単な操作で利用することができます。



タイトルやテロップ



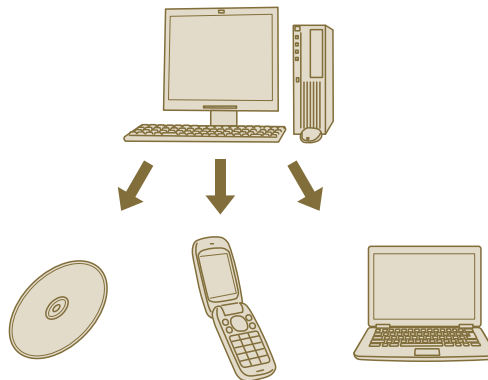
子画面を表示するピクチャインピクチャ

## ■さまざまなメディアに書き出し

作成したビデオを手軽に見られるように DVD などにするのを、ビデオ編集ソフトでは「書き出し」といっています。

Premiere Elements 15 では、編集したビデオを DVD や Blu-ray といったメディアに書き出すほかに、スマートフォンで閲覧できるようにしたり、そのまま動画共有サイトに投稿できます。ビデオを編集・作成して終わりということではなく、さまざまな人に見てもらうための配布といった面もサポートしています。

ビデオカメラだけでなく、スマートフォンやデジタルカメラで気軽に撮影した動画なども、タイトルやテロップ、BGM を加えて、きちんと編集されたビデオにして、DVD にしたり、動画共有サイトに投稿したりすることなどができます。



記録メディアやスマートフォン、Webと、いろいろな書き出しを行うことで、いろいろな人にビデオを見てもらえます。

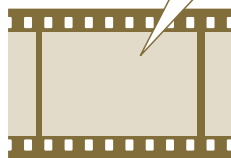
### ■素材が多いほど編集しやすい

ビデオ編集ソフトがあれば、たいいていのことはソフトで行えます。ただし、ビデオ作品の元となる素材の準備はビデオ編集ソフトでは行えません。ビデオに差し込む画像や映像、テロップなどのテキストはソフトでもまかなえませんが、元となる映像がなければビデオにすることができません。

最初は気付かないかもしれませんが、特に意味のなさそうな映像もあとで効果的に利用することが可能です。ビデオに使うのだからと、動きのある映像ばかり狙ってもなかなか想定したような映像は撮影できないこともあります。ですが、あとで編集していると逆に動きの少ない映像が欲しいという場合も出てきます。

こんな映像は使えないだろうと思わずに、積極的にいろいろなものを撮影してみましょう。単なる風景でもビデオ編集ソフトによって、見違えるような映像に変えることもできます。

これから Premiere Elements 15 でビデオ編集を行おうという人は、なるべく多種多様な映像を撮影しておいたほうがいいでしょう。



ビデオ作品

ビデオはいろいろな素材を組み合わせで作られます。素材は多いほど、思ったように編集しやすくなります。

## 2. Premiere Elements 15 の特徴

Premiere Elements 15 は、ビデオ編集ソフトです。他のソフトにはない多彩な機能が搭載されていますが、ここでは特に前バージョンの Premiere Elements 14 にはない、Premiere Elements 15 の新機能やさらに強化された機能についてざっと紹介します。

### ■写真やビデオからコラージュを作成

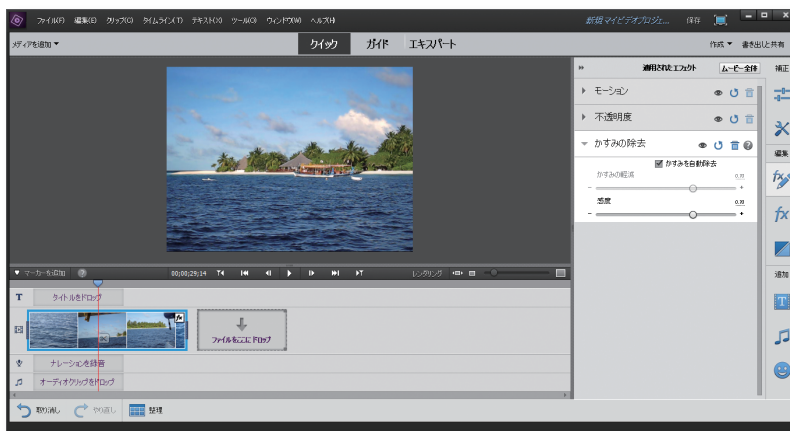
Premiere Elements 15 では、思い出とストーリーを組み合わせて表現できるコラージュを利用できます。従来のコラージュは写真しか利用できませんでしたが、Premiere Elements 15 はビデオを組み合わせたコラージュが作成できます。リストからテンプレートを選択することですぐにコラージュを作成し、家族や友達とともに楽しむことができます。



「コラージュ」では、今までの写真のコラージュだけでなく、ビデオを使用したコラージュを作成できます。多くのデザインとレイアウトが用意されているので、好みに合わせて作成が可能です。

## ■かすみを除去して鮮やかな景色を再現

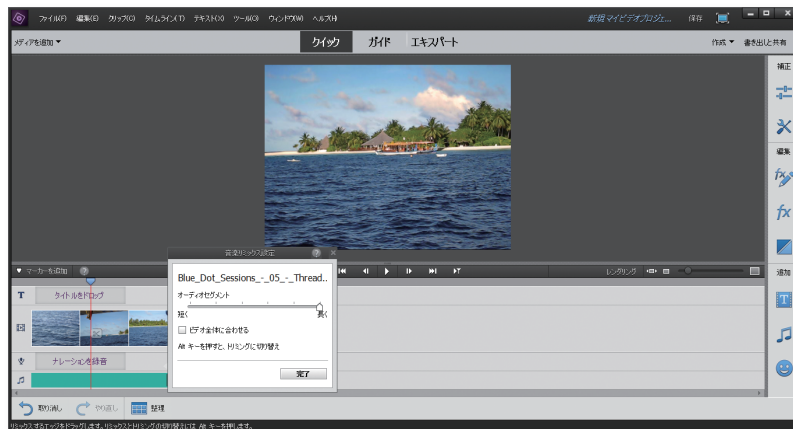
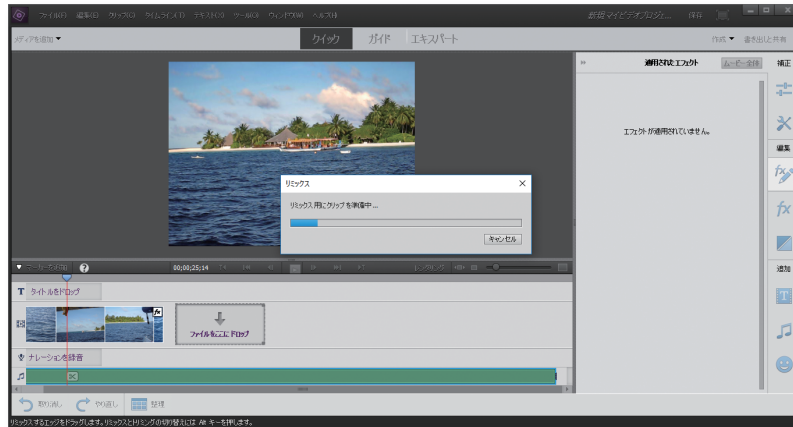
風景のビデオを撮影するとき、環境や大気の状態によってはかすみ、霧、スモッグなどが映り込んでしまいます。Premiere Elements 15 の新機能である「かすみ除去」フィルターを使えば、かすみ、霧、スモッグが創り出したマスク効果を除去できます。



かすみ除去機能を使うと、ビデオの中のかすみや霧を除去し、シャープな映像に補正できます。かすみの除去は自動調整のほか、手動でき細かい調整もできます。

## ■ムービーに合わせて音楽をリミックス

Premiere Elements 15 の音楽リミックス機能を使うと、オーディオクリップの長さを延ばしたり縮めたりするだけで、オーディオコンテンツの連続性を維持したままリミックスが可能です。ビデオに合わせて調整すれば、ビデオの長さに合わせてリミックスを簡単に行うことができます。



オーディオクリップは、映像の長さに合わせてリミックスできます。リミックスする方法はトリミングハンドルをドラッグするだけ。リミックスせずにオーディオをトリミングすることも可能です。



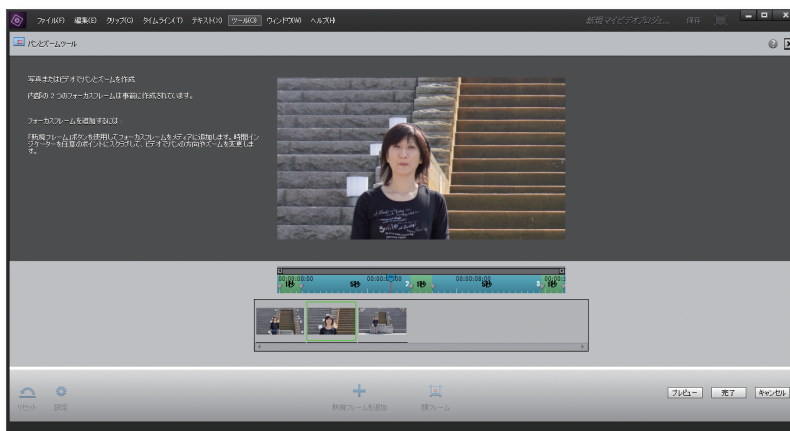
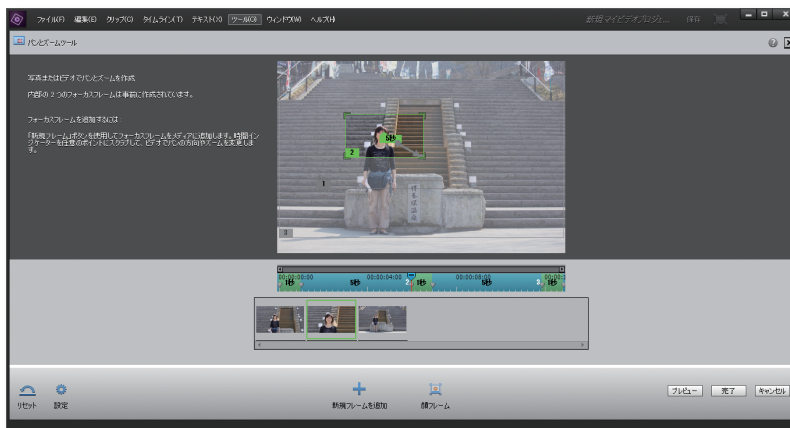
## ■顔検出機能で自動的に人物を画面中央に表示

Premiere Elements 15 は、クリップ内の顔を識別します。この機能により、お気に入りの場面をトリミングしたり、パンやズームといったストーリーを伝える処理が容易に行えます。顔検出機能は、初期状態では有効になっていますが、いつでも無効にすることも可能です。

第 1 章

第 2 章

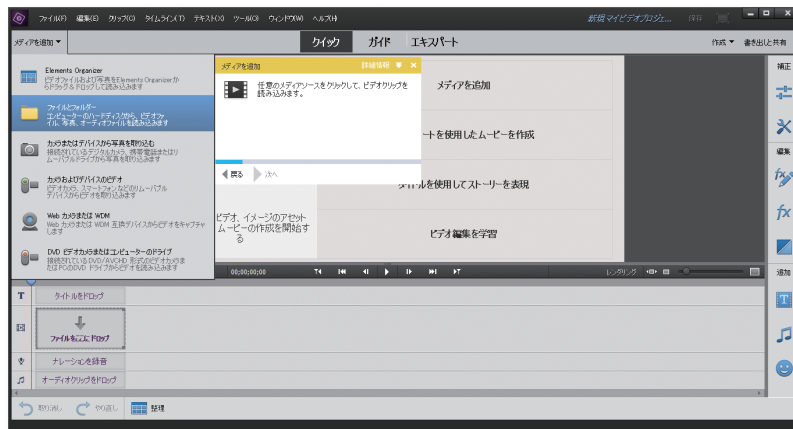
第 3 章



顔検出機能を使って、クリップ内の顔を中心にパンやズームなどを使ってハイライト表示できます。また、お気に入りの人物が写っている場面をトリミングすることも可能です。

## ■ 14 のガイド付き編集で簡単にムービーを作成

ガイド付き編集は、特定の編集作業の手順を順番にガイドし、誰でも簡単にムービーが作成できるモードです。Premiere Elements 15 のガイド付き編集はより強化され、ビデオにどの種類の調整を適用するか選択できるようになりました。



ガイド付き編集は目的別により細かに分類され、わかりやすくなりました。表示されるガイドに従って操作すれば、誰でも簡単にムービーを作成できます。

### One Point

2 in 1 PC など、タブレットモードが利用できるパソコンの場合、クイック編集モードのビデオをタップ操作で検索、並べ替え、編集することができます。

第1章

第2章

第3章

## 3. Premiere Elements 従来製品との比較

Adobe Premiere Elements は多くの機能を搭載しながら、バージョンアップごとにさらに進化しています。ここでは、従来製品との機能を比較してみます。初めて Premiere Elements を使おうとするユーザーも、従来製品をお使いのユーザーも、Premiere Elements 15 を購入の際の参考にしてください。

	Adobe Premiere Elements 12	Adobe Premiere Elements 13	Adobe Premiere Elements 14	Adobe Premiere Elements 15
<b>すばやく簡単なビデオ編集</b>				
たくさんの思い出が詰まった写真やビデオから楽しいコラージュを作成				新機能
かすみを除去して、くっきり鮮やかな景色を再現				新機能
ムービーの長さに合わせて音楽を簡単にリミックス				新機能
お気に入りの場面、スマートトリム、パンとズームで利用できる顔検出機能により、自動的に人物を画面中央に表示				新機能
ガイド付き編集機能のステップに従い、シーンの中で選択した色だけを鮮やかに浮き立たせ、他はすべてモノクロに変換			●	●
ステップバイステップのガイド付き編集機能でスローモーションやファストモーションのエフェクトを作成			●	●
ビデオストーリー機能で感動的なメモリアルムービーを作成、お気に入りのシーンを選ぶだけで Elements が自動編集		●	●	●
ドラッグ&ドロップで簡単に編集、手ぶれなどの問題をすばやく補正、テーマに沿って瞬時にムービーを作成	●	●	●	●
<b>スタイリッシュなエフェクト</b>				
14 のガイド付き編集機能を使用（一度に複数のクリップにエフェクトを適用できる機能を含む）				新機能
テキストやグラフィックをアニメーション化する内蔵プリセットを使ってモーションタイトルを追加し、本格的なムービーを作成			●	●
動いている被写体を追いかけるグラフィックやテキスト、エフェクトを追加	●	●	●	●
アニメ風のタッチ、グラフィック、トランジション、アニメーションタイトル、モーションメニュー、本格的なクレジットロールなどを追加	●	●	●	●
<b>高度な編集オプション</b>				
高解像度の 4K ムービーの編集と再生 <sup>(*)</sup>			●	●
高 DPI と Retina ディスプレイのサポート	●	●	●	●

	Adobe Premiere Elements 12	Adobe Premiere Elements 13	Adobe Premiere Elements 14	Adobe Premiere Elements 15
50以上の楽曲と250以上の効果音ですぐれたサウンドを創出	●	●	●	●
オーディオのバランスを自動設定、オーディオを簡単に修復、スライダーを操作してカラーを調整、ビデオから人物などの被写体を抜き出して別のビデオの背景に合成など	●	●	●	●
お好みの方法で共有				
4K などさまざまな形式でムービーを簡単に書き出し <sup>(*)</sup>			●	●
簡単な書き出し — ソフトウェアが最適な書き出し設定を自動で推奨			●	●
Facebook や YouTube で共有 <sup>(*)</sup>	●	●	●	強化機能
ムービーをVimeo <sup>(*)</sup> で公開、DVDやBlu-rayディスクへの書き出し	●	●	●	●
写真とビデオをすっきり整理し、すばやく検索				
撮影場所、イベント、アルバム、お気に入りなどを組み合わせて、すばやく検索				新機能
写真やビデオの撮影場所を地図上に表示 <sup>(*)</sup>	●	●	強化機能	●
イベント別に写真やビデオを検索	●	●	強化機能	●
クリップにタグを付けて整理	●	●	●	●
直感的な操作				
タッチ操作に対応したデバイスで簡単にビデオを整理、編集				新機能
アイデア、ヒント、テクニック、ヘルプ — すべてPremiere Elementsの中で解決				新機能

(\*) 本製品は、アドビまたはサードパーティのオンラインサービス（以下「オンラインサービス」という）への連携またはアクセスが可能な場合があります。オンラインサービスは、13歳以上のユーザーのみを対象としており、その使用には追加の利用条件およびアドビのプライバシーポリシー（[www.adobe.com/go/terms\\_jp](http://www.adobe.com/go/terms_jp)を参照）に同意していただく必要があります。オンラインサービスは、国や言語によっては提供されていない場合や、ユーザー登録が必要な場合があります、その全体または一部が予告なく中止または変更になることもあります。また、追加料金やサブスクリプション費用が適用される場合もあります。

サポート対象の4Kカメラは、GoPro Hero 4 Black、SONY Xperia Z3v、SONY FDR-AX100 4K HANDYCAM、Panasonic DMC-GH4 (MP4 and MOV)、Motorola Moto X (2014)、Xiaomi Mi4 です。

# Memorandum

## 第2章

# パソコンで編集するには

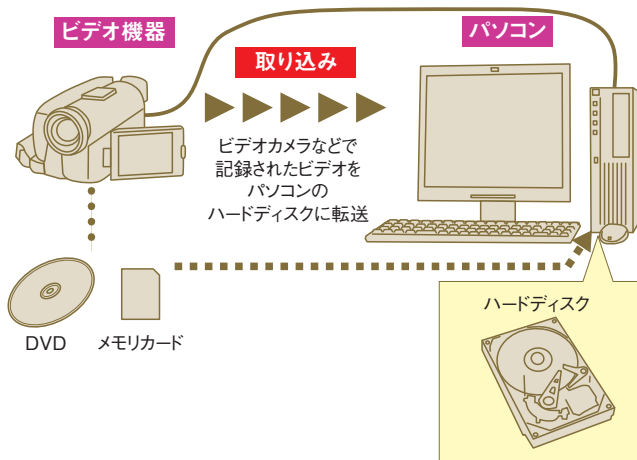
パソコンでビデオを編集するには、ビデオカメラやスマートフォンなどで撮影し、各種メディアに記録した動画を用意します。次に、メディアそれぞれから動画ファイルをパソコンに取り込み、編集作業を進めます。

編集が完了したら、手軽に鑑賞できるようにDVDやBlu-rayといったメディアや、ファイルに書き出します。

この章ではビデオ編集で必要になるハードウェアとビデオに関する基礎知識を紹介します。

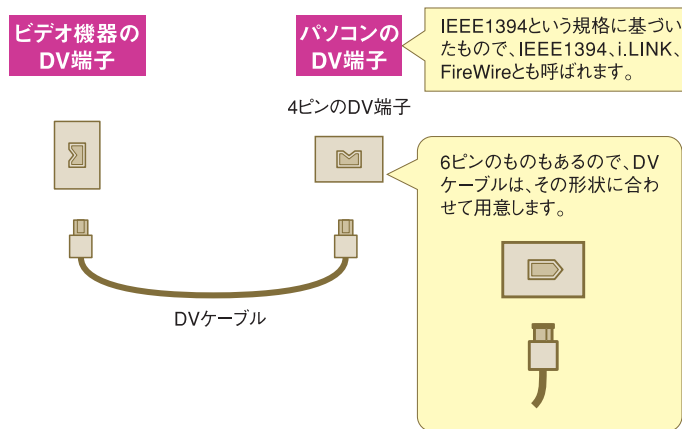
# 1. ビデオを取り込むには

ビデオの取り込みは、パソコンとビデオカメラなどの撮影機材をケーブルで接続して行うか、映像を記録した DVD やメモリカードをパソコンの DVD ドライブやカードリーダーにセットして行います。どちらの方法で取り込むかは、撮影に使用した機器によって異なります。なお、ビデオをパソコンに取り込むことをキャプチャといいます。



## ■ DV ビデオカメラや HDV ビデオカメラの場合

DV ビデオカメラや HDV ビデオカメラからキャプチャするときは、ビデオ機器の DV 端子とパソコンの DV 端子を DV ケーブルで接続します。

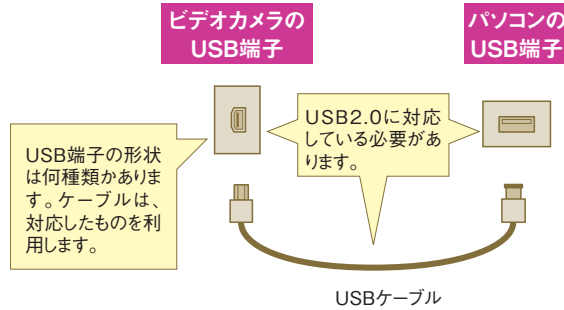


※Premiere Elements 15は、DVビデオカメラ、HDVビデオカメラからの取り込みには対応していません。

テープカメラから取り込むときは、ビデオカメラに付属のソフトを利用してください。

※パソコンにDV端子が付いていなくても、カードなどを増設すればこの方法で接続できます。

USB ビデオクラス 1.0 に対応している DV ビデオカメラから取り込む場合は、ビデオカメラの USB 端子とパソコンの USB2.0 端子を USB2.0 に対応したケーブルで接続すればキャプチャすることができます。

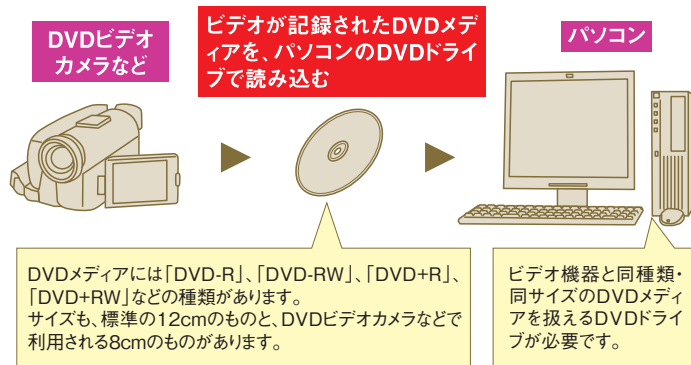


※パソコン、ビデオカメラともに DV 端子がある場合は、USB ケーブルは使わずに DV ケーブルで接続します。

※機種によっては、ビデオカメラに付属の USB ビデオクラスドライバーをインストールしておく必要があります。詳しくは、ビデオカメラに付属のマニュアルで確認してください。

## ■ DVD ビデオカメラの場合

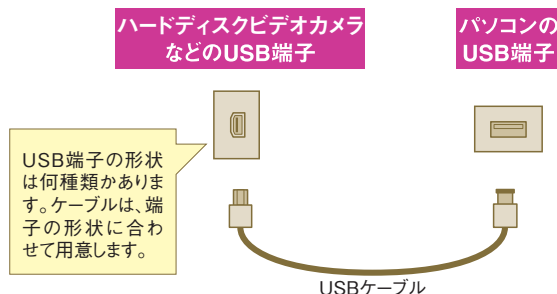
DVD ビデオカメラのように、ビデオが直接 DVD メディアに記録されている場合は、それをパソコンの DVD ドライブにセットして取り込みます。





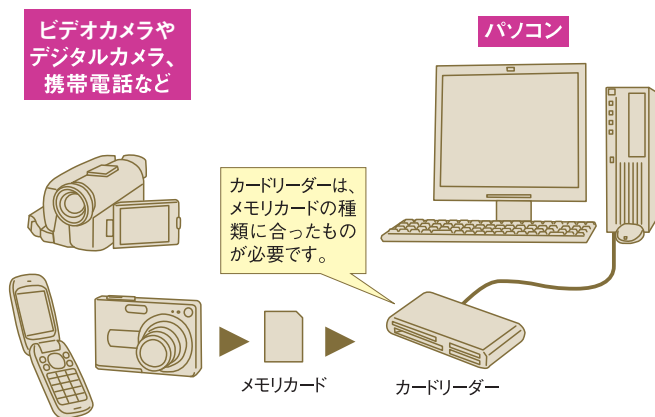
## ■内蔵メモリに記録するカメラの場合

ハードディスクや内蔵メモリに記録するビデオカメラ、AVCHD 形式のビデオカメラ、デジタルカメラ、iPhone、スマートフォンから取り込むときは、機器とパソコンを USB ケーブルで接続します。



## ■メモリーカードを取り外せる機器の場合

上記の機器でメモリーカードを取り外せる機器の場合、撮影したビデオが記録されているメモリーカードを取り出し、カードリーダー、もしくはパソコンのメモリーカードスロットにセットして取り込むこともできます。メモリーカードのセット箇所や取り出し方法については、お使いの機器のマニュアルをご確認ください。



※機器本体に記録されているビデオを取り込む場合は、そのビデオをあらかじめメモリーカードに移動するかコピーします。  
※お使いのパソコンにメモリーカードに対応したスロットがない場合は、対応するカードリーダーを用意する必要があります。

### One Point

スマートフォンで撮影したビデオは、オンラインストレージサービスに保存すると、ケーブルレスでパソコンに取り込むことができます。なお、オンラインストレージサービスには多くのサービスがありますので、自分の好みのものを使うといいでしょう。

## 2. パソコンの要件

ビデオの編集で必要になるハードウェアやパソコンについて紹介します。

### ■取り込みや書き出しに必要となるハードウェア

ビデオの取り込みや、編集したビデオの書き出しで必要となるハードウェアには、以下のようなものがあります。

パソコンの要件など	必要となるケース
USB 端子	内蔵メモリやメモリーカードにビデオを記録した機器をパソコンに接続して、ビデオを取り込むとき ※ DV ビデオカメラからキャプチャするときは、USB2.0 に対応している必要があります。
メモリーカードスロット またはカードリーダー	メモリーカードからビデオを取り込んだり、ファイルに書き出したビデオをメモリーカードにコピーするとき ※ビデオの記録用としてお使いのメモリーカードの種類に対応しているものがが必要です。
DVD ドライブ	DVD に記録されているビデオを取り込んだり、編集したビデオを DVD に書き出すとき ※書き出すためには、書き込み可能な DVD ドライブが必要です ※パソコンに Blu-ray ドライブが搭載されている場合は、DVD ドライブとして利用できます。詳しくは、パソコンのマニュアルでご確認ください。
記録型 Blu-ray ドライブ	編集したビデオを Blu-ray ディスクに書き出すとき

※すべてのものが必要というわけではありません。「1. ビデオを取り込むには」で紹介したように、利用するビデオ機器などによって必要なものが異なります。

### ■ディスクの空き容量

ビデオのデータは、デジカメの画像データなどと比べても大きなものなので、ビデオの編集にあたっては十分な空き容量のあるハードディスクが必要となります。

実際に必要となる空き容量は、取り込んだビデオを保存しておくためのスペースのほかに、編集の際にビデオ編集ソフトが作業用に使うスペースや、編集したビデオをファイルとして書き出すためのスペースなども必要となります。

ハードディスクの空き容量が足りないと考えられる場合には、ハードディスクの増設をお勧めします。

### ■ハードディスクの性能

ビデオを取り込む場合は、ハードディスクの性能についてもある程度考慮が必要です。ビデオ機器から次々と送られてくるビデオのひとコマひとコマ（各フレーム）を、途切れることなく保存できるだけの性能が必要になります。

前に送られてきたビデオのひとコマが保存されないうちに、次のひとコマが送られてきた場合、そのひとコマは消えてしまいます。これを「コマ落ち」や「ドロップフレーム」といいます。

キャプチャ時に頻繁にドロップフレームが発生するようであれば、十分な性能のあるハードディスクの購入などを検討したほうがよいでしょう。ドロップフレームは、スクリーンセーバーなど他のソフトが動作している影響で発生することもあります。

※必要な性能が満たされているハードディスクでも、ドロップフレームが発生することがあります。頻繁にドロップフレームが発生するような場合は、まず、デフラグを実行してみて、それでドロップフレームが発生しなくなるのであれば、ハードディスクの性能はある程度満たされていると考えられます。

### ■ビデオ編集ソフトが必要とする仕様を満たしているか

どんなによいビデオ編集ソフトでも、そのソフトが必要とする仕様をパソコンが満たしていなければ、正常に編集することはできません。

たいていのソフトウェアでは、パッケージに「必要システム構成」などと題して、必要とされるパソコンの仕様などが明記されています。それと、パソコンの仕様（パソコンのマニュアルなどをご確認ください）を見比べて、必要な条件を満たしているかどうかを確認しておきましょう。

特にハイビジョン画質、4K 画質のビデオを編集する場合は、標準画質のビデオの編集に比べて性能の高いパソコンが必要になります。パッケージには、その点も記載されていますから、注意して確認するようにしましょう。

ビデオ編集ソフトが必要とする仕様は、パソコンのハードウェアの仕様だけとは限りません。対応する OS についても確認します。Premiere Elements 15 の場合は、Windows 7 (Service Pack 1) 日本語版、Windows 8 日本語版、または Windows 10 日本語版のいずれか（64 ビット版を推奨）が必要です。

### ■Premiere Elements 15 の必要システム構成

- ・ SSE2 をサポートする 2GHz 以上のプロセッサ（HDV または AVCHD の編集、および Blu-ray または AVCHD の書き出しにはデュアルコアプロセッサが必要、XAVC S には Core i7 プロセッサが必要）
- ・ Microsoft Windows 7 Service Pack 1 (64 ビット) 日本語版、Windows 8.1 (64 ビット) 日本語版または Windows 10 (64 ビット) 日本語版
- ・ 4GB 以上の RAM
- ・ アプリケーションのインストール用に 5GB 以上の空き容量のあるハードディスク（インストール時には追加の空き容量が必要）、コンテンツのダウンロードには、さらに 10GB 以上の空き容量が必要
- ・ 1,024x768 以上の画面解像度をサポートするディスプレイ（倍率 100% 時）
- ・ Microsoft DirectX 9 または 10 互換のサウンドドライバーおよびディスプレイドライバー
- ・ DVD-ROM ドライブ（CD 作成には記録対応ドライブが必要）
- ・ DVD 作成には記録対応 DVD ドライブ、Blu-ray 作成には記録対応 Blu-ray ドライブが必要
- ・ Windows Media Player (Windows Media フォーマットの読み込み／書き出しに必要)
- ・ プロダクトアクティベーション（ライセンス認証）およびコンテンツのダウンロードのためにインターネット接続

## 第3章

# ビデオ編集の手順

パソコンを使ってビデオを編集する作業は、大きく分けて「素材の準備」、「編集」、「書き出し」の3つの工程になります。

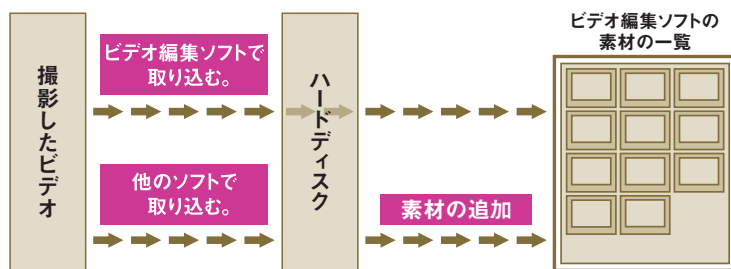
「編集」の工程の中身をもう少し詳しく分けると、「基本的な編集」、「映像の加工」、「タイトルやテロップの追加」、「オーディオの編集」です。この章では、それぞれの工程で実際にどのようなことをするのか紹介します。

# 1. 素材の準備

編集の素材となるビデオをパソコンに取り込んで、効率よく編集が行えるように準備しておくのが、素材の準備の工程です。

## ■ビデオの取り込み

ビデオの取り込みは、ビデオ編集ソフトで行います。取り込んだビデオは、パソコンのハードディスクにファイルとして保存されると同時に、ビデオ編集ソフトの素材の一覧に表示され、すぐにビデオ編集が可能になります。



撮影したビデオがうまく取り込めない場合には、他のソフトウェア（ビデオカメラやスマートフォンに付属のソフトや Windows のエクスプローラーなど）を利用してパソコンに取り込みます。そのうえで、取り込んだビデオ（取り込みによってハードディスクに保存されているビデオ）をビデオ編集ソフトで読み込み、素材の一覧に追加します。

ビデオの取り込み先は、空き容量が十分にあり必要な性能を備えたディスクを選択するようにします。

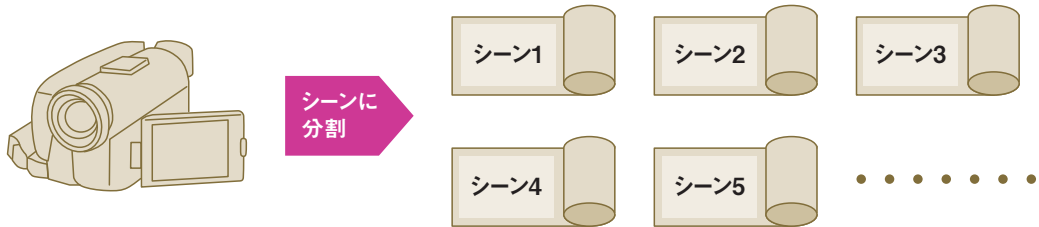
※自分に著作権のない素材を利用しようとするときは、著作権者に使用許諾を得てから利用する必要があります。許可なしに利用してトラブルにならないように注意しましょう。

## One Point

他のソフトで取り込む場合は、ビデオ編集ソフトで読み込むときのために、ビデオの保存先を確認します。取り込みの際に保存先を指定する画面などが表示されないソフトの場合は、どこかに保存先を設定する項目がないか探してみるとよいでしょう。

取り込んだビデオが、ビデオ編集ソフトで利用可能な形式になっていなければ、動画形式変換ソフトなどを利用して、ビデオ編集ソフトで利用できる形式に変換します。

ビデオカメラに記録されているビデオをキャプチャするときは、シーン分割機能を利用して、撮影したビデオをシーンごとに分けて取り込みます。そうすることで、効率的に編集が行えます。



### ■素材の確認と整理

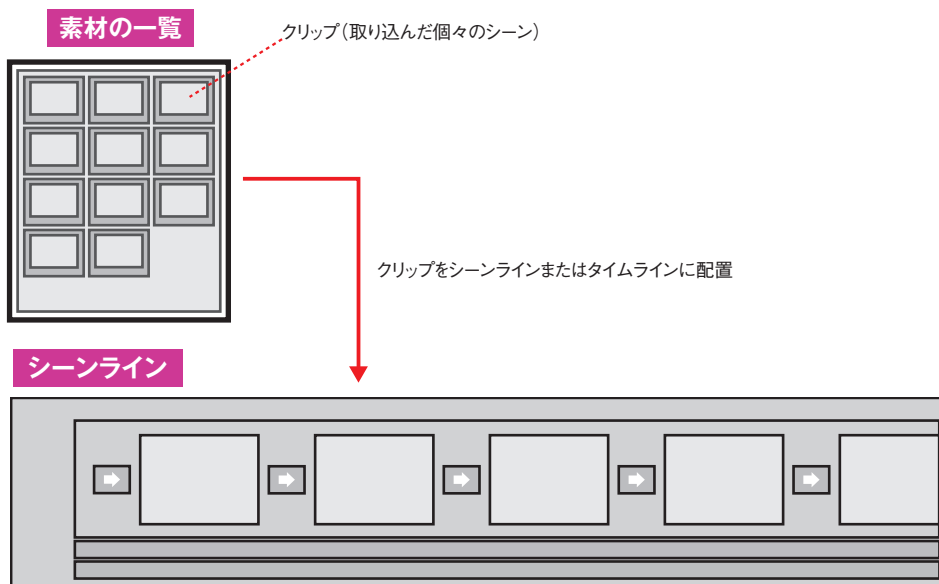
取り込んだ個々の素材について、どのようなものが映っているか、うまく撮れているかどうかなど、さまざまな角度から内容を確認し、編集時に利用しやすい形で整理しておきます。

その際は、どのようなテーマあるいは視点でビデオをまとめるか、どのような雰囲気 of ビデオに仕上げるかといったことも考えながら、内容の確認や整理を行っておくと、以降の編集をスムーズに進めるために役立ちます。

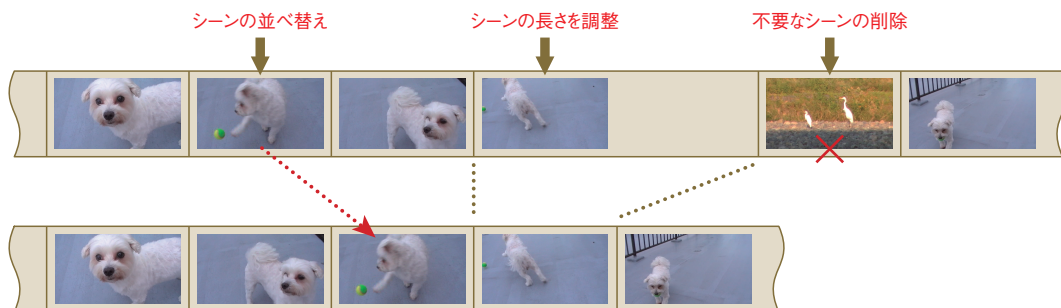
## 2. 基本的な編集

素材の一覧に追加されている個々の素材（シーン）のことをクリップと呼びます。

ビデオ編集ソフトでは、クリップをシーンラインまたはタイムラインと呼ばれる場所に、左から見せたい順番になるように配置します。できあがったビデオを再生したときには、配置したクリップ（シーン）が左から順番に表示されます。

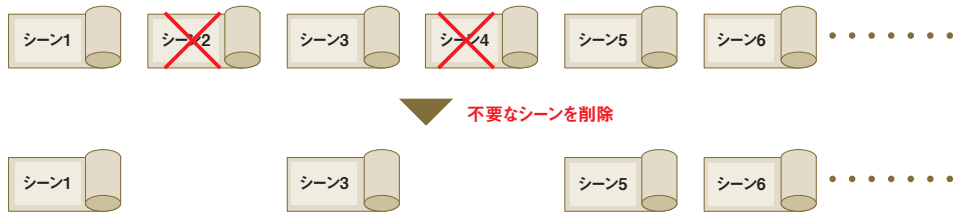


シーンラインまたはタイムラインにクリップを配置したあとは、その結果を繰り返し確認します。そして、見せたいシーンだけが見せたい順番に並んだ状態になるように編集を進めます。



## ■不要なシーンの削除

ビデオ編集の第一歩は、取り込んだ（撮影した）ビデオの中から不要と思われるシーンを削除することです。不要なシーンを削除しておけば、それだけでも見やすいビデオになります。



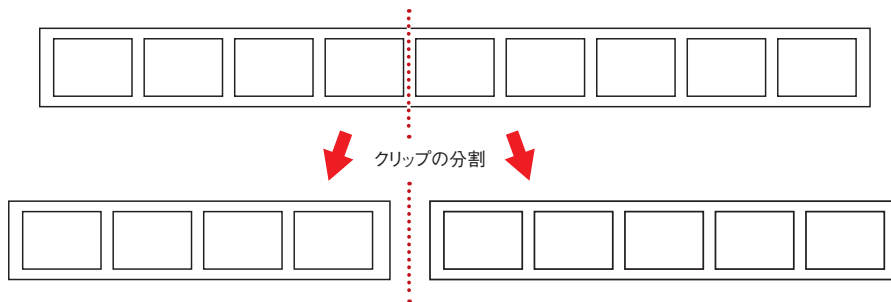
不要なシーンは、地面しか映っていないような失敗したシーンだけとは限りません。よく撮れている映像でも、あまり変化のない同じようなシーンが続くと見飽きてしまいます。そうしたシーンの中から本当に必要なものを残し、それ以外のものを削除します。

## ■クリップの分割

実際の編集では、1つのクリップに複数のシーンが含まれていたり、1つのシーンの中に必要な部分と不要な部分が混在しています。

そのような場合は、クリップをシーンごと、あるいは、必要な部分と不要な部分に分割して、それぞれが別々のクリップとして扱えるようにします。

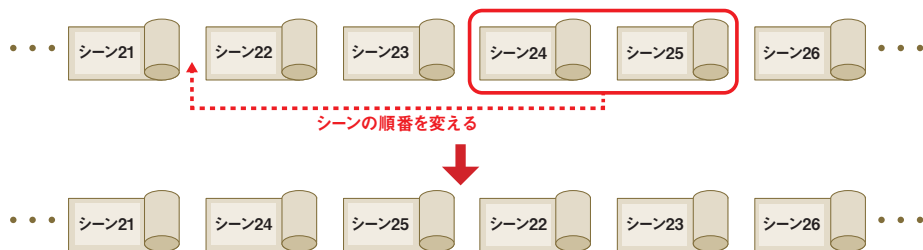
これにより、元は1つになっていたクリップから、不要な部分だけを削除したり、特定の部分だけを別の位置へ移動できます。





## ■シーンの並び替え

撮影時の時間的な流れに合わせてビデオを編集していくような場合でも、シーンを見せる順番を工夫することで、シーンの流れを自然な感じにしたり、退屈に感じさせない構成にできます。



たとえば、人が列車に乗るときの様子を、「ホームに出てくるところ」→「実際に乗り込むところ」→「列車に書かれている行き先名」の順に撮影している場合なら、「ホームに出てくるところ」→「列車に書かれている行き先名」→「実際に乗り込むところ」という順番にすると自然な感じになります。

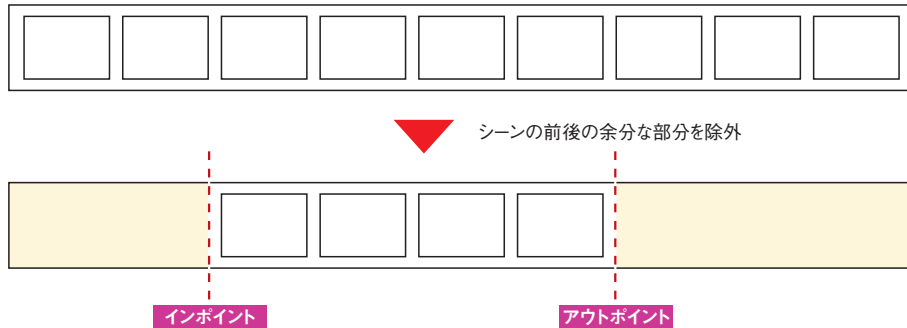
同じ角度から撮影したシーンが続いたり、引きの絵や寄りの絵ばかりが続いていると退屈な感じになることが多いので、その途中で別のもののシーンや別の角度から撮影したシーンなどをはさめば退屈な感じを和らげることができます。

※それを見るだけではつまらない映像でも、同じような構図が続く部分では役立ちます。撮影の際は、撮りたいもの（人物など）だけでなく、周りの景色なども撮っておくと、編集時に困らずに済むことがあります。

## ■クリップの使用範囲の設定

必要なシーンでも、そのシーンの前や終わりには、重要ではない内容や見せたくない内容が含まれていることもよくあります。

クリップにインポイントとアウトポイント（イン点、アウト点ということもあります）を設定して、そうした部分を除外しておくことで、そのシーンを使って表現したい内容をはっきりさせることができます。



※シーンの前後にある不要な部分は、シーンを分割して除外することも可能です。

※ Premiere Elements 15 の場合、シーンの分割やインポイント・アウトポイントの設定によってクリップから除外した部分は、インポイントやアウトポイントを設定し直すことで簡単に復元できます。このため、試行錯誤しながらクリップの使用範囲を調整することができます。

## ■シーンの長さを調整する

ある程度編集が進んだら、シーンの長さを調整します。シーンの長さは、インポイントやアウトポイントを設定して調節します。

あまり変化のないシーンは長く続くと退屈に感じますので、そうしたシーンは短めにします。そうでないシーンでも短めにして、個々のシーンがテンポよくつながるようにすれば、見ていて飽きのこないビデオにすることができます。

シーンの長さを調整するときは、前後のシーンとのつながりも考慮したうえでどこからどこまで見せるかを決めます。

### One Point

どのようなシーンでも短くしたほうがよいというわけではありません。ほとんど変化のないシーンでも、美しい風景や何か意味のあるものが映っている場合なら、BGM やナレーション、テロップ（文字による説明）などを追加して、退屈しないようにする方法もあります。また、長いまま見せることで、何かを暗示したり、退屈な感じを表現できます。

## 3. 映像の加工

場面転換に映像的な効果を追加して、そのシーンに意味を加える作業が映像の加工です。映像の加工には、これ以外にも特殊な効果を追加するといった作業も含まれます。

### ■フェードイン・フェードアウト

映像が次第に表示されるのがフェードイン、次第に消えていくのがフェードアウトです。ビデオの始めや終わりの部分、暗転させる部分などに利用します。

フェードイン



フェードアウト



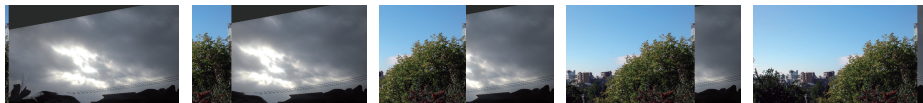
### ■トランジション

あるシーンが次のシーンが変わるところに追加する効果がトランジションです。さまざまな種類があり、使い方によって、前のシーンと次のシーンの変り目を目立たなくしたり、シーンが変わったことを強調したりできます。

クロスディゾルブ … 前のシーンが徐々に消えながら、次のシーンが徐々に表示されていきます。



スライド … 画面内に滑り込むように移動しながら、次のシーンが現れます。



ロール … 撮影中に素早く振り向いたかのように、場面が転換します。



## ■色や明るさの調整（エフェクト）

映像に多彩な加工を施すために用意されているのが、エフェクトやフィルターと呼ばれるものです。エフェクトは、色や明るさを調整するもの、映像をぼかすもの、映像を歪めて見せるものなどの種類があります。実際に映像を加工するときは、エフェクトをクリップに適用し、その設定値を変更してエフェクトのかかり具合を調整します。



元の映像



明るさを調整



色を変化



セピア調にしたとき

## 4. タイトルやテロップの追加

ビデオにタイトルを付けることで、そのビデオのテーマを明らかにしたり、ビデオを作品らしく仕上げることができます。テロップ（文字による説明）を追加することで、ビデオの内容をわかりやすくできます。

タイトルの例



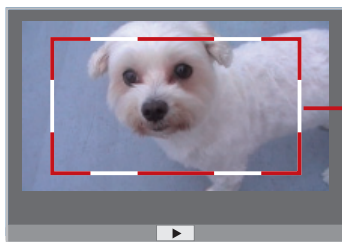
テロップの例



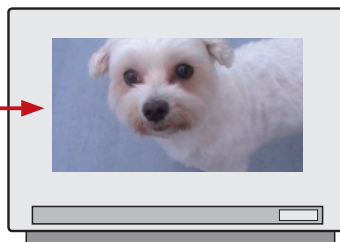
タイトルやテロップのテキストの大きさは、完成したビデオの再生環境なども考慮して、小さくなりすぎないように注意します。特にテロップを追加するときは、簡潔な文章にしたり、語句のみで表現するようにして、ある程度の大きさの文字でも画面に収まるようにします。そうすることで文字数が減り、読みやすくなります。

タイトルやテロップを追加するときは、テキストの配置にも気を使います。あまり端のほうに配置すると、パソコンでは画面に収まっても、テレビで見たときには画面の外にはみ出してしまう場合があります。テレビによってはオーバースキャンといって、実際にビデオテープなどに記録されている映像よりも、ひとまわり内側の部分だけが表示されるようになっているためです。

パソコンで見たとき

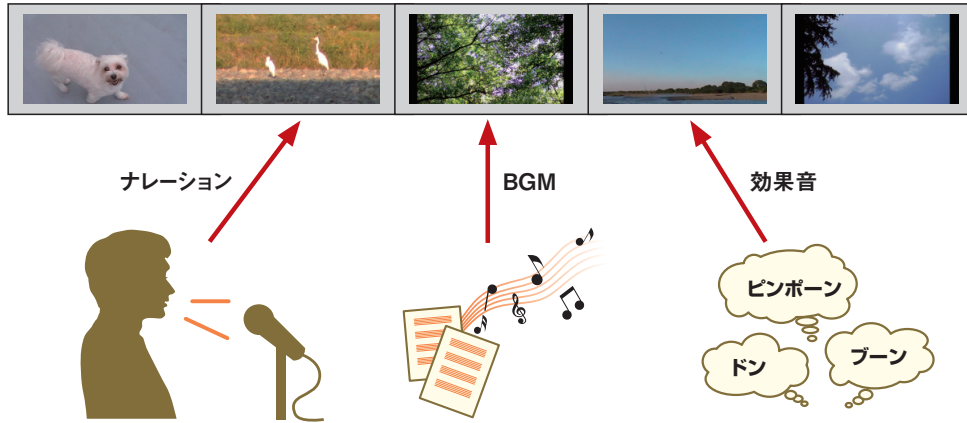


テレビで見たとき



## 5. オーディオの編集

映像の編集がひと通り終わったら、BGM やナレーションの追加など、オーディオの編集を行います。



### ■ BGM の追加

BGM や効果音を付けると、ビデオにさまざまな表情を付けることができ、作品としての完成度が高まります。

BGM や効果音を準備するときは、これまでの編集結果を再生して、どこにどのような効果音あるいはBGM を入れたいのかという点と、BGM の場合にはどれくらいの長さの曲が必要なのかという点について確認し、それを一覧表にしておくと実際に準備するときに役立ちます。

実際に準備するときは、素材集を購入してその中から選曲する、オーディオ編集ソフトを利用して自分で音を作るなどの方法が考えられます。いずれの場合もビデオ編集ソフトで利用可能な形式のファイルとして準備し、そのファイルをビデオ編集ソフトに読み込みます。なお、Premiere Elements 15 には、あらかじめ多くのBGM が用意されています。

### ■ ナレーションの追加

テロップが文字による説明であるのに対し、ナレーションは人の声による説明です。文字を読ませる必要がないので、多少長めの文章で説明を入れることができます。映像を見ただけでは退屈を感じるシーンも、うまくナレーションを追加することで生かすことができます。

ナレーションを準備するときは、どのようなセリフにするかも重要ですが、長くなりすぎないようにすることがポイントです。ある程度セリフの内容が決まったら、それまでの編集結果を再生しながら、セリフを読み上げてみて、長すぎたり、読みづらくなっていたりしないかなどをチェックしてみるとよいでしょう。

実際に録音するときは、できるだけ静かな環境を作って録音すること、何回か発声練習をしてから録音すること、セリフはできるだけ一定の速度で読み上げること（表情を付けて読みたい場合は別です）といった点に注意します。

最近はパソコンで利用できる音声合成ソフトもあります。人を使って録音できないときは、このようなソフトを使って収録する方法もあります。

### ■音量の調整

出来のよいビデオに仕上げるためには、音量をうまく調整しておくことも重要です。音が大きすぎると感じるシーンや小さすぎると感じるシーンがあれば、ほかのシーンと同じぐらいのレベルになるように音量を調整しておきましょう。BGM の音だけ大きくて、ナレーションやビデオに含まれている音がよく聞こえないということにならないように調整することも大切です。

### ■特殊効果の追加

オーディオ用のエフェクトを利用して、ビデオの音声や追加した効果音などに、エコーなどの特殊効果を加えることで、臨場感を盛り上げたり、ビデオを面白く見せることができます。

Premiere Elements 15 には、すぐにビデオ制作に使用できる豊富な効果音も用意されています。

### ■ビデオの音声の編集

ビデオは映像と音声のひとつになったものですが、映像と音声の部分は、個別に編集できます。

たとえば、あるシーンの音声を消したり、あるシーンの音声を別のシーンで聞かせることができます。映像と音声のタイミングをずらして聞かせることもできます。

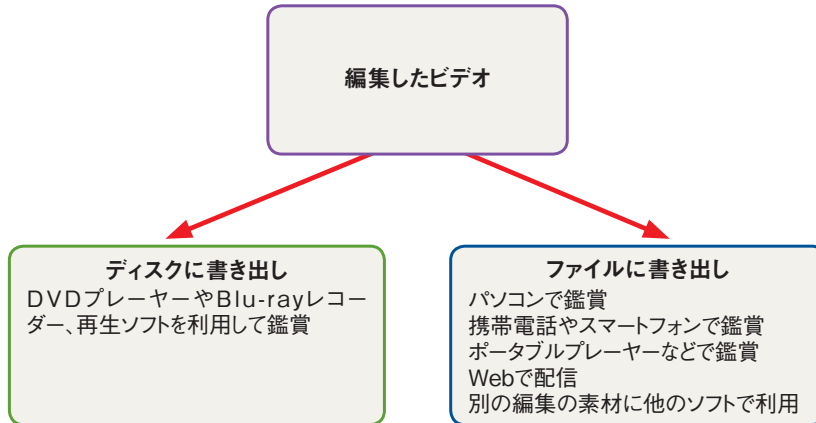
このような編集は、聞かせたくない音声ビデオに含まれている場合や、次のシーンの映像が表示される前に次のシーンの音声が聞こえてくるようにしたい場合、あるシーンの音声を別の映像と一緒に聞かせたい場合などに役立ちます。

### ■雑音の除去

ビデオの音声には、さまざまな雑音が含まれていて、それらが気になることがあります。オーディオ用のエフェクトを利用することで、そうした背後の音を聞こえなくしたり、小さくして目立たなくできます。

## 6. 書き出し

編集が終わっても、編集したソフトがなければ、できあがったビデオを鑑賞することができません。以下のように利用目的や鑑賞する環境に合わせて書き出す必要があります。



### ■ディスクに書き出し (DVD、Blu-ray)

編集したビデオをDVDプレーヤーやBlu-rayレコーダーなどで観賞する場合は、観賞するときに使う機器で再生が可能なメディアに書き出します。

ビデオ編集ソフトがDVDやBlu-rayへの書き出しに対応している場合でも、パソコンのDVDドライブやBlu-rayドライブに対応していなければ、書き出すことはできません。

※ Premiere Elements 15では、ハイビジョン形式のビデオをDVDメディアに書き出すことができます。閲覧にはBlu-rayディスクプレーヤーなどが必要です。詳しくは、第4部第6章「1. ハイビジョン画質でDVDにビデオを書き出すには」をご覧ください。

### ■ファイルに書き出し

編集したビデオをパソコンやスマートフォン、タブレットなどで観賞する場合は、Windows MediaやQuickTime、Flashなどの形式で書き出す必要があります。Premiere Elements 15では、再生する機器に合わせて、ファイルを書き出すことが手軽に行えます。



### ■ 動画共有サイトへの投稿

Web 配信するには、動画共有サイトでの会員登録が必要です。会員登録さえしてあれば、Premiere Elements 15 から直接 YouTube や Facebook へ投稿できます。動画投稿に際しては、どんな内容のものも投稿していいわけではありません。せっかく投稿したビデオが削除されないように、それぞれのサイトで規定内容を確認しましょう。ビデオのファイルサイズや視聴時間についても確認します。内容がよくても再生時間が長めのビデオは、閲覧されにくい傾向があります。内容を簡潔にしてなるべく5分以内に編集するといいでしょう。

動画共有サイトでは、投稿したビデオが閲覧された回数や閲覧した人のコメントが確認できます。コメントは受け付けられないようにもできますが、閲覧した人のコメントを参考にして何回も投稿を続けると、ビデオ編集のレベルも上がってくるでしょう。

動画共有サイトでの動画閲覧の仕組みですが、たとえば YouTube へアップロードされた動画ファイルは、圧縮されて専用のデータセンター内に保存されています。Web ブラウザーから動画ファイルを再生したいというリクエストを受け付けると、圧縮された動画ファイルがインターネットを経由して、その Web ブラウザーを使用しているコンピューターのハードディスクにダウンロードされながら再生されます。

YouTube にアップロードされたビデオは、HTML5 形式で配信されます。HTML5 形式は多くの OS、Web ブラウザーで再生することが可能です。Premiere Elements 15 で動画を投稿するときは、ビデオ形式を想定せずに投稿先や解像度を設定するだけで最適な形式で書き出すことが可能になっています。